

No.75 交流能力向上の困難さ

義高 互

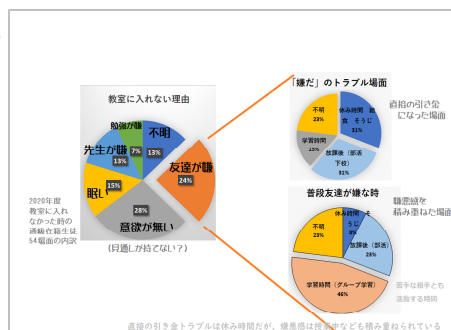
子供たちが課題を抱えて、教室でうまくいかない状況がある場合。

そのうちの原因が人間関係・人との関わり、である事があります。

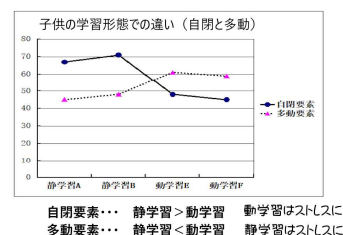
この課題を学習や指導で課題解決しようという試みは、古くから行われています。私も今まで数々の試行錯誤をしてきました。

そのうちの一つがソーシャルスキルトレーニングです。対面、ペープサート、アプリなど試してみました。ソーシャルスキルトレーニングのAIアプリ開発もその一つです。AIで音声のやり取りで学習できるものです。そのAIアプリは全国で賞を受賞しました。受賞アプリが効果がないとしたら大変です。合わせてSSトレーニングの効果を実証しました。しかし、結論を言います。SSトレーニングはAIアプリも含めて学習効果を証明することができなかったのです。私のAIアプリの出来や指導がよくなかったという原因もあるかもしれません。他のトレーニングでも体感的に効果がある、という話があります。ですが、効果を具体的に検証して、データなどで効果を実証できたものは見つけれませんでした。

トレーニングが効果を上げられない原因を追究しました。SSトレーニングは、こんな時はこうするというパターンマッチングであるものが多いです。実際の場面で効果を発揮できなかった原因の一つは、単純なパターンで当てはまらない場面が多いことでした。そしてもう一つは、わかっているが、やりたくなかった。という結果だったのです。例えば、朝あったら挨拶をする、その事は知っている、でも言う勇気がなくてできない、というケースがありました。迷惑を掛けたら



ソーシャルスキル・コミュニケーションスキル向上の難しさ



謝るというのはわかっている。でも素直に謝れなかった。というようにです。不登校の子どもに、朝起きたら学校に登校する、と指導するのと同じかもしれません。小学校や特支学級では別の結果が考えられますが、中学校通常学級在籍の子供では、わからない、ではなく、わかるがやれないという状態でした。

わかっているのにやりたくない、という場合の指導は中学校の個別指導では難しかった、というのが実感でした。ソーシャルスキルトレーニングで素晴らしい個別指導ができて、指導者の主観的効果でなく、実際の効果を実証できる方がいるとしたら教えていただきたいと思っています。

自閉的な要素のある子どもは
変更が多い授業以外の活動では
見通しが持てず、友達ともうまくいかない



SSトレーニング通りできない

単純なパターンに当てはまらない
わかっているけど、できない

例：謝るべきだが謝りたくない



個別指導、スキルトレーニングでは難しい

人間性を備えた、表情ある
サポーター・ソフト

(財) 障害児教育財団理事長奨励賞

教育コンテンツ 「あとむくん」

昨年度、「教育お絵かきソフト うけけらくがき」で同コンクールに入賞した山形県立新庄養護学校の養高直教諭は、今回、全く新しい真なるソフトを提示した。このソフトは、いわゆる疑似人格を備えたもので、学習者から発せられた言葉に、人間同士のコミュニケーション時とほぼ同様の反応を返してくれるというものである。どんな時に、どのような言葉を返すのが適切かを自分で判断する能力を、シミュレーションによって学習する目的を持つ。

これまで自作してきた内容の集大成の意味も兼ねて、“人間を支えるパートナー”としてのソフトを完成させた訳だが、実は、更なる可能性とソフトの果たす役割が見えてきたということである。



教育工学社「教育とコンピュータ」
でのアプリ受賞記事
専門誌のCDで配布されました↓

の 使 い 方

「あとむくん」

NEW 2003 2月号

CD-ROM

MP3の「atomukun」フォルダに収録されています。

れると、画面のコンパニオンが反応したり、「気分が悪い」といった言葉には望みの言葉を返したり、通常の場面

END